

泉原彌一郎

いずみはら・やいちろう

備後織物の功労者

経歴

生: 明治5年(1872年)1月1日、深安郡川南村(現福山市神辺町川南)生まれ

没: 昭和27年(1952年)、享年82歳

明治18年(1885年)ごろ	13歳ごろ	福山誠之館へ入学
—	—	備後縞の製造業を継ぐ
—	—	神辺町議員
大正10年(1921年)ごろ	49歳ごろ	水害復旧工事を推進
—	—	備後織物同業組合、評議員ならびに副組合長

生い立ちと学業、業績

明治5年(1872年)1月1日深安郡川南村(現福山市神辺町川南)に生まれる。
福山誠之館に学び、長じて家業の備後縞の製造業を継ぐ。

資性温厚にして勤勉誠実、家業に精励するかたわら、選ばれて川南村合併後は神辺町議員となり、多年にわたって公共事業に貢献した。

しかし大正8年(1919年)の大水害により神辺堤防が決壊し大被害を蒙り、翌大正9年(1920年)もまた水害となった。

村当局では、この復旧工事について、国の河川改修工事を待つ意見と、起債にたよってもこの際断行して、二度と水害を繰り返さないという意見に分かれた。

氏は促進説を唱え、隣村川北村にも呼びかけ起債により早急に工事を完遂させ、永久に水害から免れるようになった。

後年の河川改修工事でも手直しが不要なほど堅固な工事が行われた。

また織物業界の発展を図るため、備後織物同業組合の設立に力をつくし、成立後は評議員ならびに副組合長に推され、献身的に斯業の発展に貢献した。

備後縞を声価を高め、さらには輸出にも対応させるなど、氏の功績は大きい。

晩年は会社を令息の泉原伯太郎氏に譲り、神辺の自邸で余生をおくった。

昭和27年(1952年)、82歳で他界した。(出典1)

出典1:『備後備中先覚者名鑑 郷土を創った人々 上巻』、村田露月・妹尾啓司・式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和36年8月

2007年7月11日追加●2008年2月13日更新:経歴・本文・関連情報削除●